

各位

党派を超えて国家的課題を追求する

公益財団法人 協和協会 時代を刷新する会

両団体会長代行 岸 信夫
両団体理事長 半田 晴久
教育部会長 若林 克彦
両団体専務理事 清原 淳平

教育部会のお知らせ (第346回)

日時 平成30年11月30日(金) 午後1時半～3時半
場所 衆議院第二議院議員会館 地下1階 第3会議室
千代田区永田町2-1-2

◆国会議事堂前駅(丸の内線・千代田線)①番出口より下車4分、
永田町駅(有楽町線・南北線)①番出口より下車3分。当日、
午後1時より、議員会館玄関にて、通行証を差し上げます。時
刻前に到着された方は、恐縮ですが、金属探知機通過後、受付
脇のロビーにてお待ちください。会議開始後にお越しの方は、
受付に「第3会議室に行きたい」旨、お伝え下されば、お迎え
にまいります。

議題 1、最近の高等教育改革について想う
挨拶 若林克彦部会長(国士舘大学元学長)
2、要請書テーマの絞り込み(前回未検討の部分)
解説 若林克彦部会長

報告 去る10月26日開催の、第345回教育部会は、若林克彦部
会長が議長を務めて行われました。まず、若林部会長より、「最
近の高等教育改革について想う」と題して挨拶がありました。今
年のノーベル生理学・医学賞を受賞した本庶佑氏は、受賞会見で
日本企業、特に製薬会社に対して「見る目がない」と批判した。
なぜ見る目がないのかということ、日本の大学には有望な研究成
果や人材があるにも関わらず、海外の研究所の研究成
果ばかりに目が向き、日本国内に目を向けていないということだ。
近年、最も多く日本の論文を引用してきたのはアメリカ企業で、日本の1.

5倍だ。一方日本企業は特許出願に際し、アメリカの論文を45%、日本の論文は27%の引用率である。特に本庶氏の研究分野である基礎生命科学は、3倍の差がついており、これが不満の原因のようだ。海外企業は、学会などを通して日本の優秀な人材を狙っているが、日本企業は研究に対する目利きが弱く、大学側も産業応用に対する発想が乏しかった。以前から、ノーベル賞受賞者の口から日本の基礎科学分野の将来に対する不安の声が続々と聞かれるようになってきている。論文引用数が全体的に低下しているのは、研究開発費の低下と産学の連携の乏しさによるものだろう。

次に、要請書テーマの絞り込みについて、意見交換が行われました。○専門職大学の審査結果が最近出たが、17件申請があった中で、認可が下りたのはリハビリテーション専門の1件のみで、2件が保留のほかはすべて申請を取り下げた。準備不足が指摘される厳しい結果となった。○専門性を職業に生かせる典型例が農業高校から農業専門大学へ進む道であろう。○就職活動に関する指針が撤廃されたことにより、学生が研究や学業に専念できる環境が整備されるのが望ましい。社会で有用な人材育成は喫緊の課題だ。○今年度の大学ランキングが発表されたが、世界のトップ大学との差は大きく、アジア圏でも10番以内に入れられないという厳しい状況は相変わらずである。特に学生の語学力の低さによって、外国人の研究者が外国語で授業ができないことが問題視されていた。○地方の過疎化を特色ある大学誘致によって解消しようという取り組みもあったが、失敗例も多い。○憲法改正によって私学助成の違憲状態を解消しようという取り組みも後押ししていきたい。

★資料代 会員は**五百円**に ご協力御願ひ申し上げます。

次回、11月30日（金）の教育部会に

出・欠（いずれかに○印）

事務局宛 F A X 03-3507-8587

御芳名 _____

貴方様の F A X _____

電話 _____

**テロ対策への警備からの要請上、会員に限ります。非会員で
参加希望者は、2日前までに履歴書をご提出下さい。**

（その場合の当日会費は二千円となります）

当日連絡先 080-8836-6203 又は 080-9292-2620

協和協会事務局 ☎03-3581-1192 時代を刷新する会事務局 ☎03-3272-4320

H P <http://www.jidaisassin.jp> Eメール kiyohara@jidaisassin.jp